

国際

こだいら



2005年

No.47

Kodaira International Friendship Association News



花は心

外国人のためのいけばな入門

日本語会話教室

日本語会話教室は、月・金・土曜日のクラスがあります。受講生のレベルと目的に合わせた少人数のグループレッスンです。受講生は日本在住の外国人の方々。日本人と結婚した、留学でやって来た、夫婦で来日しているなど、状況は様々。「子供が持ち帰る、学校からのお知らせプリントが読めるようになりたい」「尊敬語や謙譲語を正しく使えるようになりたい」「仕事で使いたい」など、受講動機もまた人それぞれですが、語学に興味があるという以上に、必要に迫られているという方が多く皆さんとても熱心に学習しておられ、それだけに上達も早いようです。

先生方にお伺いしたところ、「それぞれの生徒が何を求めているのかを一番に考え、日本で生活する上で必要な日本語を楽しく教えたいと思っています。そのためは、教える技術先行ではダメ。ひとりひとりの事情や気持ちを大切に、生徒の心に添う指導を何より心掛けています。」と語って下さいました。どんな生徒も決して投げ出さない、強く温かな姿勢が伝わってきました。

レッスンの終わりには、皆で和気あいあいとティータイムです。先生、受講生ともにお茶を飲みながらおしゃべりに花が咲きます。「この時間は先生とリラックスして話せるし、他のクラスの人とも友達になれて楽しいです。」という声が聞かれました。最後は「先生、さようなら」「また来週」「がんばろうね」と日本語で挨拶のとび交うお別れでした。



10月21日（金）、アメリカで幼児教育の現場を経験した専門家の太田洋子さんをお迎えして、文化の違う国での子育てについてお話を伺いました。

小平市内で実際に子育てに励んでいる外国人ママを対象に幼児教育の心構えや、日常生活の方法について、話がありました。後半は、太田先生が、参加者の各テーブルを回り、対話形式で行ない、和やかな雰囲気が生まれました。

外国人のための いけばな入門

日本文化体験のためのコースとして1年おきに開かれている華道入門講座が、11月5日から始まった。1月28日までの全10回コース。講師は、国際交流さくら会の先生方です。生徒は、中国・台湾・韓国・インドネシア・スイス出身の女性10人。

初日は花田美津江先生。まずは道具の説明から。水盤、剣山、はさみと実物を前に丁寧に話をされる先生の声に、みな真剣に耳をかたむけている。華道の伝来について、花により季節を感じるということ、遠近感の表現などいろいろなお話があった。

この日の花材は石化やなぎ、くじゃく草、菊。大きな枝と格闘しながら、花の表情に気をつけながらいけていく。生徒は、初めて花をいける人が多かったようだが、なかには同じ講座を何回も受講しているという人もいた。「花には気がある」「自分のいけた花に感動しなくてはいけない」などと先生は生徒たちに声をかけていらしかった。いけ終わると、みな疲れたようであったが、それぞれ自分のいけた花に満足している様子であった。最後に「片付けもいけ花のうちです。使ったあとはきちんと始末をしましょう」と指導があった。

次週はどんな花に出会えるか。どんな作品に仕上げられるか。これからの楽しみである。



談話会 日本での子育てを 楽しむために



スペイン語を学ぼう

9月26日より20回に亘り毎週月曜日2時～3時半まで、川口マルガリータ先生の御指導のもとにスペイン語講習会がKIFA3階教室で開かれている。



受講生は14名、お互いの顔が見えるように机を輪型に並べ、テープを聞いたり、教科書や板書によって、単語のスペルを確認し、2人ずつ組んでお互いに話すことによりスペイン語を会得して行く方法で一生懸命学んでいた。

スペイン語は軽いきれいな発音の言葉で動詞の語尾が男性か女性かによって異なっているのが特徴である。日本人はスペイン語に限らず語学を学ぶのに何回も声を出して話すことが大切であるとの先生のお話であった。

また指導に際しては受講者に自信を持たせるよう、よい所を見つけて褒めることを心掛けていたとのこと、中高年の受講生もみな失敗を恐れず楽しそうに学んでいたのが印象的であった。

インタビュー

川口・マルガリータさん
日本人とご結婚、日本にしっかり根をおろし、ご自分の夢にまっしぐらのマルガリータさん、アルゼンチンの大地のようなおおらかで優しい素敵な女性でした。

アルゼンチン



◎どちらの御出身ですか。

南米のアルゼンチン出身です。ラプラータという町で生まれました。

◎スペイン語はどのような国で使われていますか。

メキシコ、ペルー、ボリビア、アルゼンチン、チリなど。アメリカ(メキシコからの移民が多いので)などです。

◎どのような経緯で来日されたのですか。

大学卒業後、暫くアルゼンチンの小学校で音楽の教師をしていました。1990年に日本の文部省の奨学金の審査に合格して音楽療法の研究に来日しました。最初は大阪外語大学で3ヶ月日本語を勉強し、それから千葉大学教育学部(音楽)で2年間音楽療法の勉強をしましたが、留学生プログラムで日本文化に親しみました。一旦アルゼンチンに戻りましたが、また来日して10年位前からスペイン語の先生になりました。

◎日本に来て驚いたことは何ですか。

大学近くの銭湯で、皆着ている物を脱いで風呂に入るのに驚きました。今は那須温泉によく行きます。温泉は体にもよく大好きになりました。また、駅で分からない事があると誰でも親切に教えてくれたことがありました。いまで



は昔日本人だったような気がします。

◎日本料理は好きですか。

すき焼き、鍋物、おでん、焼き魚が好きです。生物は苦手、お刺身は食べません。

◎ご家庭で日本料理を作られますか。

通っている教会に外国人に日本の家庭料理を教える教室があり、出し汁のとり方、材料の使い方を習い、家庭でも作ります。材料も手頃な値段で手に入ります。

◎アルゼンチンのお料理について教えてください。

牛肉を沢山食べます。イタリア、スペインからの移民が多く、パスタ、ピザ、パエリアなども食べます。食事の時はワインを、朝食やおやつの際はミネラル、カルシウムの多いマテ茶を飲みます。

◎これからの夢は?

自分の語学学校を持つことが私の夢です。

◎日本の方へのメッセージをお願いします。

外国の言葉をもっと口に出して使って欲しいです。日本語はひらがな、カタカナ、漢字があって、書くことを覚えるのが大変です。だから、外国語を勉強する時にも、書くことが大事になるのかと思います。でも、書くことよりも、口に出してリピートすることが必要です。語学は実際に使ってみることが大事。「教室の外で、実際にそのフレーズを28回使うと定着する」と言う説もあるんですよ。習ったフレーズを恥ずかしながらにどんどん使って下さいね。

国際こどもクラブ

かぼちゃもいっぱい用意して...

Let's enjoy Halloween Party!!!



10月29日(上)3時から4時まで会議室で、大人も子どもも待ちに待ったハロウィンパーティーが行われました。

中でも、とんがり帽子に魔女のコスチュームを着た女の子が、皆のリーダーのようです。「感想は?」と聞くと、「大満足!」という頼もしい答えがかえってきました。

皆一個ずつ自分のかぼちゃに絵を描いたり、ゴーストバッチを作った後ほっと一息ティータイム。子供達は輸入製の珍しいお菓子を手にとって、「これってなんだろう?」と、眺めたりすかしたり、興味津々であったという間にたいらげました。

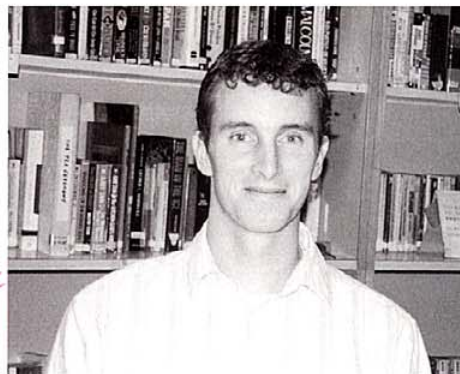
続いて、ダーツゲームを楽しみました。そろそろ名残惜しみながらも、フィナーレへ。電灯を消して、手作りの3つのランタンに点火すると、皆感動して、「うわー!」という歓声が起こりました。今年もまたひとつ、秋の思い出ができましたネ。



A B 英会話 C D

9月10日から11月12日まで、平成17年度後期国際こどもクラブが開催されました。毎週上曜日、英会話と異文化理解講座を通して、小学4年生から6年生までの子どもたちが楽しく異文化体験をしました。後期より英会話の先生にディル・ロビンソン先生をお迎えしました。ロビンソン先生はオーストラリアのメルボルン出身。現在日本の小・中学校で英語を教えています。

10月22日(土)英会話講座を見学しました。子どもたちは先生と、英語でカードゲームをしています。時々日本語をまじえながら、好きな食べ物、動物、スポーツなどを質問しあい、とても楽しそうです。また、大きな声を出して数字を学習しました。その後には今度は買物ゲームです。いくつかのグループにわかれ、習った数字とカードを使い英語での買物を体験します。「Can I help you?」「How much is this?」子どもたちの声が響いていました。



No.46の評議員の名前に誤りがありました。訂正しておわびします。

- Ⓙ クアシ・チェイ・アモアベン
Ⓛ アモアベンクアンチュ

編集後記

立冬も過ぎそろそろ冬支度の季節になりました。機関誌No.47をお送りします。

今回のインタビューではアルゼンチンのお話を聞きました。毎号各国のお話を紹介していますがそれぞれの国の特徴など分かって楽しく仕事をしています。なお、機関誌に対するご要望などありましたらKIFAまでお知らせ下さい。編集部一同来年もがんばりたいと思っています。(K・I)

発行日 平成17年12月1日
発行 小平市国際交流協会 編集 機関紙グループ
〒187-0045
小平市学園西町2-12-22 学園西町地域センター3階
☎042-342-4488/FAX. 042-347-3003

国際交流協会のインターネットもご利用ください

E-mail : info@kifa-tokyo.jp Homepage : <http://www.kifa-tokyo.jp/>